

魅力ある地域づくり

「にいかっぷピーマンようかん」売れてます

道の駅 サラブレッドロード新冠

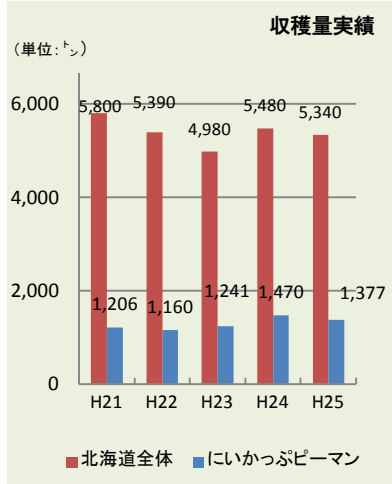
新冠町は、生産量北海道一を誇るピーマンの特産地。このピーマンを使った商品開発に力を入れています。

生産量北海道一のにいかっぷピーマン



昭和55年から栽培が始められ、平成14年に旭川を抜き生産量北海道一となる。

平成26年は生産額過去最高の5億2千2百万円となり5億円台を達成。道内生産量の約20%を占める。



「資料:農林水産省作況調査作物統計」



中川店長

販売者の声

道の駅 中川店長に聞きました。

Q 「にいかっぷピーマンようかん」の売れ行きは？
A 売れています。何回かテレビ等で取り上げられて、その影響かなと思います。「新冠温泉レ・コードの湯」でも販売が開始され、予定販売量の3倍以上の売れ行きです。

Q 今後の展望は？

A 今の状態が続くことを願いつつ、可能性を感じたら、更なる商品開発を求めたいと思います。



新冠町 白浜主査

開発者の声

「ご当地グルメ検討委員会」事務局の白浜主査に聞きました。

Q ピーマンようかんの開発を手がけたきっかけは？
A 地域の特徴ある商品を開発したいとの思いです。併せて「にいかっぷピーマン」のブランド力向上を目指していたこともあります。

Q スイーツの原材料でピーマンを用いることに抵抗はありませんでしたか？

A 苦み、食感等で広い世代で嫌われているイメージは認識していました。それを逆手に取れないものかと考えました。また、ビタミンA、C、鉄、ミネラルが豊富に含まれており、栄養価が高いので、健康志向に合致するとも考えました。

Q 大学に商品開発の研究委託をされていますが、その成果は？

A 各製品に使いやすいピーマンペースト、アイス、肉まん、カステラを開発しました。

Q 今後の展望は？

A ソフトクリームの販売を目指しています。ご期待ください。

開発事業について

にいかっぷピーマンは国道235号、日高自動車道から苫小牧港を経て大阪、名古屋方面へ、北海道縦貫自動車道を経て札幌、旭川方面に輸送。日高自動車道の整備により、速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、流通利便性向上が期待される。開発局では、このような整備効果発現のため事業を進めています。

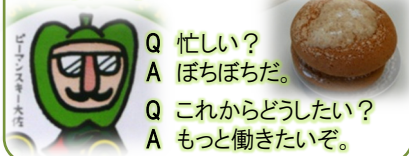


広報担当の声

ピーマンスキー大佐に聞きました。

Q ピーマンようかんの販売前は何をしていたの？

A パフパフマン(ピーマンパフケーキ)の宣伝マン。H21からやっている。



Q 忙しい？

A ぼちぼちだ。

Q これからどうしたい？

A もっと働きたいぞ。



「にいかっぷピーマンようかん」誕生！

町内で新冠町独自のお土産品を求める声があり、平成23年に新冠町、観光協会、企業等を構成員とした「スイーツ研究会」設立。平成24年に農協等が加わり、研究会を拡大させた「ご当地グルメ検討委員会」に展開。



「ご当地グルメ検討委員会」で議論を重ね、生産量全道一を誇るピーマンを対象を絞り込む。うどん、そば、ようかん、せんべい、ピザ、餃子の皮等8品を開発し、ようかん、チップスが平成26年3月に商品化。

ピーマンの栄養価をそのままお菓子に詰め込んだ「にいかっぷピーマンようかん」は、おやつに最適。かすかなピーマンの風味で甘さが抑えられ、絶妙な味わいです。

